

会 議 録 (要点筆記)

会 議 名	第4回米原市自治基本条例推進委員会
開 催 日 時	平成24年11月12日 (月) 午後3時00分～午後5時00分
開 催 場 所	米原庁舎 2A会議室
出席者および欠席者	出席者：今川会長、山本副会長、井上委員、鹿取委員、清水委員、 中村委員、逢阪委員、安田委員、米澤委員、 安田広報秘書課長補佐 【事務局】平居政策監、田中政策調整課長、仲谷政策調整課長補佐、 坂主査、三輪主任、中寫主任 欠席者：堀委員、松宮委員、岩山委員
議 題	市と市民の情報共有について
結 論 (決定した方針、残 された問題点、保留 事項等を記載す る。)	・今回の議論を受け、「情報の共有」について具体的な提案内容の 検討を行う。
審 議 経 過 (主な意見等を原則 として発言順に記載 し、同一内容は一つ にまとめる。)	1 米原市自治基本条例講演会の報告 (資料) ・9月25日開催。9月は自治基本条例記念強調月間としており、併 せて開催した。 ・自治基本条例推進委員含めた市民を対象とするほか、市職員の研 修としても開催した。参加者は75人。 ・講師には龍谷大学政策学部の土山希美枝准教授を迎え、自治基本 条例の基本原則の一つ「情報の共有」をテーマにお話いただいた。 ・情報を持つという状態は、対話や議論によって自らのものにする ということ。対話や議論によって得られた意見や合意が新しい情報 になっていき、その連続が情報の共有となるのではないか。対話と 議論が展開される場にいることが参加であるから、情報共有と参加 はセット。政策においては、行政も市民も間違いうることから、対 話と議論の場をできるだけ多く用意しておくことが重要。 ・また、市に対しては、情報発信をルール化し、日常業務とすること で一定の情報発信ができると提案いただいた。

## 2 前回の推進委員会での議論の振り返り

・第3期の推進委員会では、「情報の共有」をテーマにしていこうという結論となった。行政のみではなく、市民側でも、関心を高め、積極的に情報を受け取るなど自らの行動につなげる手段について議論していく。

・(1) 問題提起型の広報、(2) モニター制度、(3) 区報、小さな単位の寄合などを市民間の情報共有の場として活用することについて意見が出たので、これらについて、市が取り組んでいること、他市の状況を報告する。

## 2 まいばら協働事業提案制度について(資料1)

・今年度からスタートした新しい事業。第1期の推進委員会の意見書の中でも、「市民・事業者側からの部局横断的提案の制度をつくる」というような意見があり、ようやく着手できた。

・市民の皆さんから提案をいただき、行政と協働して課題を解決していくもの。提案内容は、「自由提案型」と市がすでに行っている事業、これから着手しようとする事業で、協働でやっていきたいものをあらかじめ設定する「行政テーマ設定型」の2種類。

・地域創造支援事業との違いとして、地域創造支援事業では、団体が自主的に行う地域でのまちづくり活動に対して補助金という形で資金面での支援を行うもの。提案制度では、提案団体と市が協働で行うため、団体、市がともに主体となる。経費についても、協働の形態によって、補助金に限らず、委託や直接経費もあり得る。また、資金面の支援だけではなく、お互いに役割分担をして事業を進めることに違いがある。

・今年度は、スタートの年でもあり、今年度中に事業を実施するプレ募集、来年度に事業を実施する本募集を行い、プレ募集で5つの提案、本募集で11の提案があった。

・今期の推進委員会でも「情報共有」がテーマになっているが、提案事業でも、情報発信、情報共有に関する提案が多くあった。

・既存団体からはもちろん、新しいグループや若い世代の人たちか

ら提案をいただいたこともひとつの特徴。

・推進委員会からも審査員として参加いただいた。提案制度をより良い制度にするために、実際参加いただいて何か御意見がありましたら伺いたい。

[意見交換、感想・質問等]

・できれば協働事業提案制度について、この推進委員会からの提言の一つに加えていけたらと思う。こんな風に変えていけば良くなるというような点からも意見交換を。

・これほどの数の提案があったのは驚いた。落とすための審査ではなく、提案側が前向きになれるような審査を。

・米原市が良くなるという期待を持たた。行政側も提案数が少ない方が楽という後ろ向きな考えではなく、たくさんアイデアをもらおうという前向きな姿勢でいてもらいたい。

・本来は各課での行政内部の改善がまずあるべき。市民もお願い事ではなく、こうしたら良くなるという提案ができるようレベルアップも図れると良い。

・本募集では自由提案6つ、行政テーマ5つであり、自由提案がもっと増えると良い。NPOなどのグループはもちろん、もっと自治会からも提案があると良い。今後制度を定着させていってもらいたい。

・もっと積極的に採択しても良かったかと思う。いろんな団体にいろんな角度から展開してもらうことで発展につながる。行政テーマ設定型では、行政から課題設定の段階も含め、もっと積極的に市民の方に投げかけがあるとより良かったかと思う。

・昨年大河ドラマの時も長浜市に出遅れており、米原市は観光面が弱いと感じている。提案制度では、観光に関する提案が採択されなかったのが気になった。市民として、米原市にはこれが必要だとして提案していただいたのだから、採択しなかったから関係ないのではなく、今後も何らかのフォローは必要ではないか。

→観光だけではなく、提案いただいた事業については、不採択となった事業についても、アイデアや協働できる部分については、担当課で積極的に進めていく。今回は、観光事業の行政テーマを設定で

きると良いかと思っている。

・高齢化、少子化、空家の増加など、米原市が抱えている課題をもっと積極的に提案制度のテーマとして出してはどうか。行政だけで考えるのではなく、市民からも広くアイデアを求める時期が来ている。採択、不採択は別にして、市民のアクションを促すことも一つ。

・米原市の規模に比べると提案数が多いと感じた。一般市民の方がどれくらい提案制度を知っているのか、関心をもっておられるか。また関係者以外にも市民、職員などプレゼンの傍聴者がどれくらいあったか。

→具体的な数は把握していなかったが、プレゼン当日は関係団体以外の傍聴者もあった。他市のプレゼンにも視察に行ったが、他市より賑わっていたと感じる。提案制度の募集に当たって、事前説明会を実施しており、約 20 団体の参加があった。制度の認知度については、初年度のため低いと思うが、提案された事業についての情報提供を含め、来年度、制度自体の広報についても力を入れていく。

・プレゼン結果を広報にも掲載されているが、定期的に進捗を公表することで、他団体の皆さんも関心を持たれる。まずはプレ事業の報告会をされると思うが、広く公開してたくさんの方に来ていただいたり、また提案団体と行政の満足感だけではなく、ほかの市民や市全体にどれだけ波及効果があったのかということの評価することで、協働で行うことの意義を PR できるのではないかと。

・行政テーマとしてあがっていた情報発信について、今回は不採択という結果となったが、提案者と継続的に協議をして次年度に向けて動いていく予定はあるのか。

→具体的に次年度に向けた協議は行っていないが、提案内容の必要性は市も感じているところなので、提案いただいた 2 団体に協力いただきながら構築していきたいと考えている。

・プレゼンの時は、誰も悪いこと、不利になることは言わない。良いことばかりではなく、失敗についても示せると良いのではないかと。失敗から学ぶこともある。

### 3 自治会における区報の発行に関する調査結果について(資料3)

・前回の推進委員会で、身近な区報をもっと活用してはどうかという意見があり、区報の発行について調査を行ったところ、44%の自治会が区報を発行している結果となった。

・特徴ある区報を7つ資料として示した。

\*米原西…絵手紙作品など区民の文化、芸術を取り上げるほか、予防接種など市民に身近な市からの情報を掲載している。

\*醒井…カレンダーを掲載し、区内の行事や自治公民館活動がわかりやすくなっている。

\*上板並…委員会の内容のほか、地域課題の獣害対策を記事にしている。みらいつくり隊の加藤氏がこの記事を書いており、水源の里振興の取組が地域に生かされている。

\*長沢…まちづくりに熱心な区民が寄稿している。

\*寺倉…区行事の報告のほか、区長からのメッセージとして、地域課題に触れられている。

\*清滝…年に2回発行。役員の紹介や、区長の重点項目が紹介されている。

\*柏原…A3 両面サイズで分量がある。大きな自治会で印刷部数も多い。必要に応じて臨時発行もしている。

・地域それぞれの特色を出して、地域の情報のやりとりしている。これをどのように生かしていくかということについて議論いただきたい。

### 4 問題提起型広報について(資料2)

・問題提起型広報とは、住民の問題意識を高める広報。

・三重県名張市、北海道恵庭市の事例を資料として紹介。名張市は広報を週4回発行されている。地震に対する備えとして「自助」「共助」「公助」をキーワードとして市として、市民としてできることを考える内容。恵庭市では、5年ほど前の内容ではあるが、雪克服術として、除雪の現状、基準、費用を示し、今後の除雪体制の在り方について住民に是非を問う内容。

・米原市では、獣害対策（8月15日）、認知症予防（9月15日）について特集を組んだ。ページの都合により掲載内容を絞ったりと難しいところもあるが、市としても特集を組み、市民の生活に役立つ、必要な情報をお知らせしている。

・もう一点、口頭での説明になるが、前回の委員会で意見として出ていたモニター制度について、県内の状況を調べたところ、県に県政モニター制度があるのみで市町ではない。草津市、栗東市は過去に導入していたが、パブリックコメント制度、市長との座談会の導入で役割を終えたとのこと。高島市では広報モニターに応募された方と市の趣旨とが違い、続けていくのが難しいため休止中。

・米原市では、来年度広報媒体に関するモニタリング制度を実施予定。市の広報物をモニターの方に見てもらい、意見をもらう。意見交換により、さらにわかりやすい広報を目指していく。

〔区報の発行について意見交換、質問等〕

・他の自治会の区報はいつでも見られる状況なのか。特色ある広報を御紹介いただいたので、他の自治体も学べると良い。

→山梨県庁舎では掲示板に掲示している。調査をした中でも、他はどのようなかという意見もあったので結果については各区長にお返ししたいと考えている。

・区報を出している自治会はまちづくりに熱心。区の課題を認識する機会になっており、区報は住民と住民をつなぐ大きな役割がある。発行には、テクニックも必要であり、部数が多いところも大変。区長だけが担うのも大変。区の中で組織化されているところは続けやすいのではないか。本日資料としていただいた良い広報をサンプルとして、区報発行の奨励やアドバイスをしていただけると良い。

・資料によると、区報の編集担当者が1、2人と少なく、区長や役員が担っていると思う。そうすると役員になること自体が負担になってくるのでは。役員に限定せず、区内には、そういうことに長けた人もいるはずなので、そういう人を活用するようには。市の広報は見ないが、区報は見るという声もよく聞くので、区報は出す

ようにすると良いかと思う。

・自治会の中でも組織はあるが、マンネリ化している部分もある。問題提起型広報は良い取組。例えば、区で会合をした時に、内容だけではなく年々参加人数が減っている実態など、そのまま区報で知らせても良いのではないか。いいことばかりではなく、問題点を知らせることでより良くしようと区民の関心も高まる。せめて、すでに区報を発行している自治会の担当者だけでも、資料を渡すと参考になるのでは是非お願いしたい。

・自治会区報コンクールなどやっても良いのでは。自治会も大小あり、特徴もあるので一定の基準だけで比較するのは難しいが。自治会活性化の切り口だと思う。

・大野木区の区報は過去に表彰されたことがあったのでは。続いている秘訣は何か。

→組織がしっかりしている。早くからまちづくりの仕組みができていたからだと思う。

・区報が一番身近な広報。自治基本条例の委員になって、情報を得られるし、市民としても意識改革になる。こうしたことを自分の自治会に反映させたい。

・区報はたいてい役員か区長が作っていて、区民は区の状況を知りたいと思うが、区長としては確実に決まったことしか書けない。何でも書けると言えないところが難しい。

・区長にだけ集中するのではなく、担当者に任せる仕組みづくりができると良い。

・区報の活性化については、どのようなきっかけをつくると良いでしょうか。区報コンクールという意見も出たところ。

・区報を発行していない自治会もあるし、推進委員会でこのような意見があったと知ってもらえれば。

・この推進委員会も公開でありながら、誰も傍聴に来られない。区長さんたちの目に触れることが必要。

・広報で区報の特集があっても良いのでは。

・何もかも行政がすると押し付けになってしまうのでうまくやらな

いといけない。気づいてもらうには、直接言う方法と目に留ませる方法があるが、直接言うとなぜ仕事を増やすのかと問題になる可能性もある。

・いただいた資料の中にもあったが、区長会の内容をもっと知らせてもらいたい。

・区報を発行して何人読んでいるかが問題。

・市の広報より区報を読んでいる人の方が多い。市の広報にも良いことが書いてあるのに残念。配布物が一度に来るもの問題。時間がある人しか読んでられない。

〔問題提起型広報について意見交換〕

・米原市の広報では、鳥獣害対策、認知症など、これからの課題を取り上げていただいている。今後も問題提起型の特集が組まれると良い。課題を取り上げて、さらに各自治会や団体でどう考えてどう取り組もうとしているかという特集にしてもらえると読む方は面白い。伊吹山テレビとタイアップするなどうまく発信できると良い。

・せっかく自治基本条例があるので活用していくべき。区報を出してもらおうようにしていくなど、活発なまちづくりが進むよう取り組んでもらいたい。区報がベストというわけではないが。

・どのようにきっかけをつくっていけるかをこの委員会で提案できると良い。問題提起型広報は恵庭市が元祖と言われている。事業、施策的な問いかけ方をしている。見出しの掲示の仕方も恵庭流と言える。

・米原市でも伊吹方面と米原方面では地域事情も異なる。除雪、鳥獣害問題にしても随分違う。米原の方では、工業団地に印刷会社が決まったが、その後どうなっているのか、米原駅東口の区画整理はどのような状況なのかは関心が高い。大きな課題は問題提起として広報で取り上げてもらいたい。

〔情報モニターについて意見交換〕

・住民の関心事は広報で積極的にという話もあったが、そこまでも



っていくためには、情報モニター制度も一つの手段かもしれない。  
何かほかにもいい方法があれば。

- ・人選は大切。出発点は文句でということもあり。回答してくれない人では意味がない。明確に回答してくれる人が必要。
- ・まちづくりには、若者、バカ者、よそ者がいないと活性化しないとされている。いろんな意見を言う人がいい。

〔広報秘書課から広報を含めた市の情報媒体について補足説明〕

- ・広報が市民のどの世帯にも配布している一番基本的な媒体。月に2回発行。広く市の情報をお知らせしたいというのが第一。重要課題、政策、新たな制度は必ず広報に掲載している。これまで重要な内容は、少しの紙面で年間通じて連載的に掲載していたが、記事が多くなり重要な内容が埋もれてしまう反省から、資料で見えていたように、今年度からは問題提起とまではいかないが、定期的にテーマを持って大きく取り上げている。

- ・行政放送（伊吹山テレビ）は、他市にはない媒体。1週間単位で放送しており、身近な、直近の話題を取り上げ、広報とも連動させている。

- ・どういうことが良かったか、悪かったかというような意見を具体的にいただけていなかった。モニター制度として、年4回程度、モニターの方から市の情報サービスについて意見を聞く機会を設けたいと考えている。堅苦しく決まったことを聞くのではなく、率直な意見を聞かせていただき、情報をやりとりしながら、より良い広報、伊吹山テレビをお届けしていきたい。

- ・区報を中心にして、お互いの自治会が相互に気づき合うにはどうしたらいいか。広報についても、住民の方にもどう気づいてもらって考えてもらえるか。協働提案事業も同様に、特に行政テーマの方では、もっと気づきを住民の方に提供して提案をいただけるようなあり方についての課題が出てきた。

- ・住民相互が気付く仕掛けの在り方と行政に適切な情報をどう提供

	<p>できるか、行政がまた住民にどう問題提起できるかについて、仕組みの提案をこの委員会ではしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕組みについては、今からは議論する時間がないので、次回までに考えてきていただきたい。3、4つ具体的な提案ができれば。区長さんに一方的に強制する内容ではいけないし、やわらかく気づいてもらうための仕組みをどうするか、そのためには、行政も一定の役割を担う必要があるのかもしれない。</li> </ul> <p>4 次回日程調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今期委員会の任期は9月まで。それまでに提案をまとめたい。</li> <li>・次回は具体的な提案内容について話し合い、合意を得たいと思う。</li> <li>・次回は、2013年（平成25年）5月13日（月）午後3時から。</li> <li>・課題は共有できたので、そこにどういう仕掛けを入れるかというところを次回の議論としたい。</li> </ul>
--	--

会議の公開・非公開の別	<p>■公開 傍聴者： 0人</p> <p><input type="checkbox"/>一部公開</p> <p><input type="checkbox"/>非公開</p> <p>一部公開または非公開とした理由</p> <p>( )</p>
会議録の開示・非開示の別	<p>■開示</p> <p><input type="checkbox"/>一部開示（根拠法令等： )</p> <p><input type="checkbox"/>非開示（根拠法令等： )</p>
全部記録の有無	<p>会議の全部記録 <input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無</p> <p>録音テープ記録 <input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無</p>
担 当 課	<p>政策調整課 (内線91-244)</p>